

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600085		
法人名	社会福祉法人 ナイスランド北方		
事業所名	グループホームきたがた		
所在地	佐賀県武雄市北方町大字志久4531-18		
自己評価作成日	平成29年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年3月10日	外部評価確定日	平成29年4月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設は、平成17年11月1日に開設し、12年目を迎えます。閑静な住宅街の中であり、自然環境にも恵まれ、ウッドデッキから見える景色は美しく、四季の移ろいを肌で感じる事ができます。畑では、季節の野菜を作り、入居者様と一緒に収穫し、そのお野菜で作る料理はまさに絶品です。また、併設の特別養護老人ホームは30年の歴史があり、地域の介護の拠点となっています。職員は、入居者様の立場に立った支援を心掛けており、行動を問題として捉えるのではなく、行動をその方のサインとして捉え、可能性を発見し、新たな行動への誘発へと繋げています。入居者様は高齢になり、認知症を患い、住み慣れた自宅を離れ、他者と共同生活を行いながら日々自身の病気と向きあっておられます。認知症に特化した施設として、認知症に対する医学的、社会的理解を深めて行けるよう、日々努力しています。</p> <p>当施設は、訪問看護や併設事業所の理学療法士、栄養士との連携を図り、入居者様の現状に即したケアを提供しています。入居者様は和やかな雰囲気の中で、ご自分のペースを大事に生活されています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は大きな貯水池の辺に建ち、周囲は自然豊かで静かな環境である。玄関脇の囲炉裏の間はフリースペースで靴を脱がずに入ることができる。近所の方の立ち寄りや家族との話し合いにも使われ、インフルエンザ等が流行る時期(12月～3月)は入室を断りここの面会となっている。しかし、家族にはその徹底した対策が支持されている。職員は勤務に就くとまず利用者一人ひとりと挨拶を交わす。担当ユニットに限らずである。それは利用者の様子を知り、推し測ることに役立っている。「利用者の立場に立って」を心掛けたケアは「行動をサインと捉えて」寄り添う姿勢に表れている。また、テキパキと片付けてもよいことと時間をかけて接するケアを使い分け、職員同士のチームワークにも支えられた事業所である。更に、法人もまた現場の声に耳を傾けており、意見は真摯に聞いている。地域の方々との交流を図る認知症カフェの例は、事業所でも興味を持ち検討に入っている。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の権利や尊厳が損なわれることなく、自分らしくほがらかに、過ごしていただくことを念頭に、毎日の朝礼で唱和し、理念については正面玄関の見えるところに掲示している。	入居者様の権利や尊厳が損なわれることなく、自分らしくほがらかに、過ごしていただくことを念頭に、毎日の朝礼で唱和し、理念については正面玄関の見えるところに掲示している。	理念は至ってシンプルである。開設時の職員達によって「自分らしくほがらかに」と謳われ、現在もその想いを引き継いでいる。当時の利用者による書が穏やかに来訪者を迎えている。表現はシンプルであってもその言葉の奥は深い。職員一人ひとりが考え、利用者に寄り添うケアを実践している。また、朝礼時には利用者も一緒に唱和することがあり、職員に見守られながら当たり前のこととして暮らす日常が垣間見える。常に立ち戻る基本である理念が浸透し、活かされているのがうかがえる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例のお月見会や納涼祭に、地域の方の参加をよびかけ、楽しい交流ができています。地域の秋祭りの時は子供浮立に立ち寄ってもらい、交流ができています。	毎年恒例のお月見会や納涼祭に、地域の方の参加をよびかけ、楽しい交流ができています。地域の秋祭りの時は子供浮立に立ち寄ってもらい、交流ができています。	法人が複数の施設を展開する敷地内に当事業所もある。地域への貢献は法人の強みを活かし全体で行われている。介護に関する講座はもとより、地区の清掃活動等にも積極的に参加している。区長や諸会議でもたらされる地域情報は各事業所へ伝達され、そこに住む一員として把握している。また、地域からは見守られ、非常事態には協力を得る関係も築けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の取り組みの一環として、老人会や地域の方々に、介護予防教室を開催したり、ボランティア交流会において認知症やグループホームについての説明を行い、理解を深めて頂くよう取り組んでいる。	法人の取り組みの一環として、老人会や地域の方々に、介護予防教室を開催したり、ボランティア交流会において認知症やグループホームについての説明を行い、理解を深めて頂くよう取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の2か月の全体的な動き等を報告し、それに対する意見や避難訓練への助言、市の新たな取組や地元の情報等活発な話し合いがっており意見や助言はサービスに活かしている。	入居者様の2か月の全体的な動き等を報告し、それに対する意見や避難訓練への助言、市の新たな取組や地元の情報等活発な話し合いがっており意見や助言はサービスに活かしている。	運営推進会議は外部の人の目が入る貴重な機会である。現在、外部メンバーは二名で、家族等へ依頼もしているが難しい状況である。事業所は限られた時間で忌憚のない意見を出してもらえるよう努めている。最近の会議では、子ども達の通学路に立ち、見守りをする提案がなされた。利用者にとって、ユニフォームを着て子ども達と挨拶を交わすひとときは新鮮であり楽しみともなっている。体調等もみながら継続を考えている。また外部評価の報告も行う予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公的制度(生活保護)を必要とする入居者の状況は、定期的に市担当者に報告を行っている。また、疑問や問題が出た時は、市役所、社協などへ相談したり出向いて協力関係を築いている。	公的制度(生活保護)を必要とする入居者の状況は、定期的に市担当者に報告を行っている。また、疑問や問題が出た時は、市役所、社協などへ相談したり出向いて協力関係を築いている。	市担当者は運営推進会議メンバーでもあり顔見知りである。事業所外の同業種の集まりで会うこともあり、異動があれば連絡を受けている。必要な時は相談もし、また逆に空き室等の問い合わせがあったりもする。最近の例では、家族から後見人制度を知りたいと言われ担当者へ説明を依頼した際にも快く応じてもらっている。また、介護相談員も受け入れており、1～2ヶ月に一度、一時間程の滞在ではあるが利用者同士の関係でアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する行政指導や見解、制度を熟知し、仮に生命の危険上拘束せざるを得ない状況になったとしても、三大原則を厳守し、専門家として入居者様の生命と尊厳の両立を最大限実現出来る様配慮している。玄関の施錠については、入居者様の状態に応じて対応している。	身体拘束に関する行政指導や見解、制度を熟知し、仮に生命の危険上拘束せざるを得ない状況になったとしても、三大原則を厳守し、専門家として入居者様の生命と尊厳の両立を最大限実現出来る様配慮している。玄関の施錠については、入居者様の状態に応じて対応している。	職員は身体拘束の内容やその弊害を理解している。研修もあり、法人内や事業所独自でもそれぞれ年一回は行っている。他県での痛ましい事件等々の理由から玄関は常に施錠しセンサーもある。もし外へ向かう利用者があれば開けて職員も一緒に歩き、本人が納得するまで付き添うのを基本としている。また、各居室には簡易な鍵が付いており、自宅でも外出する時や夜は戸締りをしていたように使う利用者も多い。そのため災害等の訓練では解錠係りを決めている。日常のケアの中で、仮に不適切な場面を見た場合は別室で速やかに指導することとしている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB (うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人勉強会や研修において、入居者様の人権を常に意識し、高齢者虐待防止法について、学び話し合う機会を設けている。職員は、虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。また、職員のメンタルヘルスにも力を入れている。	法人勉強会や研修において、入居者様の人権を常に意識し、高齢者虐待防止法について、学び話し合う機会を設けている。職員は、虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。また、職員のメンタルヘルスにも力を入れている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は「権利擁護」について法人の勉強会や外部研修で学んだ事は、チームで共有している。また、必要性がある時は本人と関係者で十分に話し合い、成年後見人制度の情報提供などを行っている。	管理者や職員は「権利擁護」について法人の勉強会や外部研修で学んだ事は、チームで共有している。また、必要性がある時は本人と関係者で十分に話し合い、成年後見人制度の情報提供などを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は文書に沿って説明を行い不安や疑問点に対しても十分な説明に努め理解と納得を得たうえで行っている。解約は本人や家族が困らないように今後の事を十分に話し合い納得を得ている。	契約時は文書に沿って説明を行い不安や疑問点に対しても十分な説明に努め理解と納得を得たうえで行っている。解約は本人や家族が困らないように今後の事を十分に話し合い納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは、普段の会話の中から意見や要望を聞く機会が多く要望により、外食や外出に出掛けている。ご家族には面会時や、サービス担当者会議の時に意見や要望を聞いている。また、第三者窓口について説明しホーム内に掲示し、苦情受付箱を設置している。	入居者からは、普段の会話の中から意見や要望を聞く機会が多く要望により、外食や外出に出掛けている。ご家族には面会時や、サービス担当者会議の時に意見や要望を聞いている。また、第三者窓口について説明しホーム内に掲示し、苦情受付箱を設置している。	家族の訪問は多い。意見箱への投稿はなく、面会時を家族の想いが聞ける絶好の機会と捉えている。あまり意見を言わない家族とも世間話や利用者の近況を伝える中で汲み取れるよう努めている。家族の要望で多いのは残存能力の維持である。骨折後のケアも含め、強制ではない楽しみながらできる運動を職員達が考案し実践している。事業所には、率直な意見を真摯に受け止め活かす姿勢がうかがえる。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議で、職員から意見や提案があっており、管理者はその内容を検討して可能な限り、意見や提案を運営に反映させるようにしている。代表者は定期的に個人面談を実施し、意見については集約後、改善に向け取り組んでいる。	毎月のグループホーム会議で、職員から意見や提案があっており、管理者はその内容を検討して可能な限り、意見や提案を運営に反映させるようにしている。代表者は定期的に個人面談を実施し、意見については集約後、改善に向け取り組んでいる。	毎月一回の職員会議は両ユニット合同で、16時から約一時間行われており、休みの職員は自由参加である。会議は事業所内の役割担当者(行事・物品など)が周知を図る場でもある。限られた時間を有効に使うためレジュメ準備はもとより、ケアを前倒して会議時間を確保し集中して行っている。終了後は速やかにケアに戻るとい流れはチームワークの良さが支えている。また、職員は日頃から自由に意見を出し合い、それが議題になることもある。管理者は職員とのコミュニケーションを大切に、働きやすい職場となるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価と目標管理シートを全職員に提出させており、個人面談も行っている。それを管理者が評価し賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。また、代表者は個々の作文を通じて就業環境を把握し改善に活かしている。	年2回自己評価と目標管理シートを全職員に提出させており、個人面談も行っている。それを管理者が評価し賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。また、代表者は個々の作文を通じて就業環境を把握し改善に活かしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に、外部講師を招いたり、老施協やグループホーム協会の勉強会や発表会に積極的に参加する機会を設けOJTとOFF-JTの推進を図っている。	内部研修に、外部講師を招いたり、老施協やグループホーム協会の勉強会や発表会に積極的に参加する機会を設けOJTとOFF-JTの推進を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員を外部研修会に積極的に参加させ、情報交換を行ったり、ホームの行事には、声をかけ参加をしてもらい交流を深め、サービスの質の向上に努めている。また、佐賀県認知症介護指導者を内部研修に招き、認知症ケアの質の向上に努めている。	職員を外部研修会に積極的に参加させ、情報交換を行ったり、ホームの行事には、声をかけ参加をしてもらい交流を深め、サービスの質の向上に努めている。また、佐賀県認知症介護指導者を内部研修に招き、認知症ケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、居室や共有スペースなど全体を見てもらうようにしている。その際、さりげない会話を通じて相互理解を深め、信頼関係を構築し、情報収集に努めている。聞いたことは、全職員に伝え、情報を共有することで、安心して過ごしてもらうよう関係づくりに努めている。	利用前に、居室や共有スペースなど全体を見てもらうようにしている。その際、さりげない会話を通じて相互理解を深め、信頼関係を構築し、情報収集に努めている。聞いたことは、全職員に伝え、情報を共有することで、安心して過ごしてもらうよう関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は、ホーム見学の際や、入居申し込みの際に、困っていること、不安なこと、要望等に傾聴し、家族の抱える思いを十分に受け止め、円滑なサービスの利用ができるよう信頼関係の構築に努めている。	職員は、ホーム見学の際や、入居申し込みの際に、困っていること、不安なこと、要望等に傾聴し、家族の抱える思いを十分に受け止め、円滑なサービスの利用ができるよう信頼関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の抱えておられる問題について、十分に聞き取りを行い、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設の情報を提供したり、紹介したりしている。	ご本人や家族の抱えておられる問題について、十分に聞き取りを行い、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設の情報を提供したり、紹介したりしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の体験談や会話の中学ぶ所は学び、その方の得意とする分野の力を、発揮してもらうことにより自信をもって生活出来るように支援している。また、分からないところは入居者様に尋ねながらおこなうようにしている。	利用者様の体験談や会話の中学ぶ所は学び、その方の得意とする分野の力を、発揮してもらうことにより自信をもって生活出来るように支援している。また、分からないところは入居者様に尋ねながらおこなうようにしている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に入居者様の状態を報告し、要望などを伝え理解して頂き、職員と家族が互いに協力する事で本人を支えていく関係を築いている。また、言われたことや思いも伝え、本人とご家族の絆を大切にしたい支援が出来ている。	定期的に入居者様の状態を報告し、要望などを伝え理解して頂き、職員と家族が互いに協力する事で本人を支えていく関係を築いている。また、言われたことや思いも伝え、本人とご家族の絆を大切にしたい支援が出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により自宅に必要な物を取りに行ったり、馴染みの美容室へ散髪に行ったり、地域の敬老会等に参加し馴染みの方々と会う機会を設けている。	本人の希望により自宅に必要な物を取りに行ったり、馴染みの美容室へ散髪に行ったり、地域の敬老会等に参加し馴染みの方々と会う機会を設けている。	入居までの人間関係を把握するためには本人や家族はもちろん、担当のケアマネジャーや利用していたサービス事業所からも話を聞いている。それを受けて馴染みの美容院へ通うなど支援ができています。家族の協力でお正月やお盆の帰宅が叶い、墓参りへ付き添う事もある。日常では友人や家族への電話を取り次ぎ、毎月の便りに直筆メッセージを書いてもらうなど関係が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶時など、入居者様それぞれが誘いあい、一緒に出て来られるなど、お互いに支え合える関係性の構築ができています。また、入居者様の関係を把握した上で、定期的にソファやテーブルの座り位置を変え、人間関係が円滑に行くよう環境づくりに努めています。	食事やお茶時など、入居者様それぞれが誘いあい、一緒に出て来られるなど、お互いに支え合える関係性の構築ができています。また、入居者様の関係を把握した上で、定期的にソファやテーブルの座り位置を変え、人間関係が円滑に行くよう環境づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、面会や様子を伺い、これまでの関係性を大切にしている。また、必要に応じて本人・家族への、サポートの支援を行っている。同一敷地内に移られた方へ、入居者様と共に、定期的に面会に行っている。	利用が終了しても、面会や様子を伺い、これまでの関係性を大切にしている。また、必要に応じて本人・家族への、サポートの支援を行っている。同一敷地内に移られた方へ、入居者様と共に、定期的に面会に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	関わりを大切に、その方の思いや意向を聞かせて頂き、表情やしぐさ、行動などから発せられるサインも見逃さないよう把握に努めている。困難な場合は、会議やサービス担当者会議で話し合い、内容によっては家族に協力を依頼し、できるだけ本人本位になるように努めている。	関わりを大切に、その方の思いや意向を聞かせて頂き、表情やしぐさ、行動などから発せられるサインも見逃さないよう把握に努めている。困難な場合は、会議やサービス担当者会議で話し合い、内容によっては家族に協力を依頼し、できるだけ本人本位になるように努めている。	「行動をサインと捉え」の具体例として夜間の頻尿対応がある。行動は、構って欲しい願望の表れではないかと分析し、日中に関わりを増やしてみたところ落ち着きが戻り効果があったというものである。このように職員は想像力を働かせ、利用者に寄り添う姿勢で想いを汲み取ろうとしている。また、入浴中の寛いでいるひとときや、ソファでの話し相手、爪切りなど一対一のケアの時には想いが聞けることも多い。それらは申し送りノートに記され、口頭やカンファレンスでも周知され共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に、本人や家族にお会いし、これまでの生活歴や環境、馴染みの暮らし方やサービス利用の経過を尋ね、フェースシートに記入し、チームで共有できるようにしている。使用されていた家具やテレビなどを居室においてその方の馴染まれた環境の中で生活して頂けるよう支援している。	利用前に、本人や家族にお会いし、これまでの生活歴や環境、馴染みの暮らし方やサービス利用の経過を尋ね、フェースシートに記入し、チームで共有できるようにしている。使用されていた家具やテレビなどを居室においてその方の馴染まれた環境の中で生活して頂けるよう支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のケースに一日の過ごし方、心身状態や有する力等を記入し、職員は、出勤時に必ず目を通し現状の把握の努めている。また、状態変化時は、申し送りノートや口頭でも報告し情報を共有しケアにつなげている。プランの実行中も介護経過記録や日々の記録を参考に現状の把握に努めている。	個別のケースに一日の過ごし方、心身状態や有する力等を記入し、職員は、出勤時に必ず目を通し現状の把握の努めている。また、状態変化時は、申し送りノートや口頭でも報告し情報を共有しケアにつなげている。プランの実行中も介護経過記録や日々の記録を参考に現状の把握に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の生活に対する意向や要望を大切に、スタッフ、訪問看護師、主治医の意見を踏まえ、サービス担当者会議を開催している。状態変化時は、随時個別のカンファレンスを行い集約後、計画に活かしている。	本人や家族の生活に対する意向や要望を大切に、スタッフ、訪問看護師、主治医の意見を踏まえ、サービス担当者会議を開催している。状態変化時は、随時個別のカンファレンスを行い集約後、計画に活かしている。	本人の想いは日頃の関わりの中で把握し、家族の要望は来所時の会話から汲み取っている。家族アンケートには、介護計画は分かりやすく説明を受け一緒に話し合っているとの回答もある。頻繁にカンファレンスを行う事業所の姿勢は、設定期間の6ヶ月に関わらず、変化があればその都度見直しを行う臨機応変さへ繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子やケアプランに基づく実践や気づきを個別ケース記録、施設介護経過、申し送りノートに記入し、全職員が入居者様の現状を共有している。また、情報を踏まえて意見を出し合い、モニタリングを実施し、ケアプランの見直しに活かしている。	入居者の日々の様子やケアプランに基づく実践や気づきを個別ケース記録、施設介護経過、申し送りノートに記入し、全職員が入居者様の現状を共有している。また、情報を踏まえて意見を出し合い、モニタリングを実施し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況、その時々ニーズに対応するため、双方で十分な話し合いを行い意向に添った柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。入居者様の状態の変化は、家族の要望などに応じて、主治医との連携をとり、受診などの対応をしている。	本人やご家族の状況、その時々ニーズに対応するため、双方で十分な話し合いを行い意向に添った柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。入居者様の状態の変化は、家族の要望などに応じて、主治医との連携をとり、受診などの対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れをしており、傾聴や年末の大掃除等に協力して下さっている。高校生や専門学校生のボランティアも受け入れており、交流の場を設けている。	地域ボランティアの受け入れをしており、傾聴や年末の大掃除等に協力して下さっている。高校生や専門学校生のボランティアも受け入れており、交流の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（ひばり） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（うぐいす） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人や家族の希望を、大切に安心して医療が受けられるよう、かかりつけ医を継続してもらっている。基本的に受診は、家族対応だが、困難な場合は、往診を依頼したり、受診に同行している。医療機関との情報交換を行い、適切な医療が受けられるように支援している。	受診は、本人や家族の希望を、大切に安心して医療が受けられるよう、かかりつけ医を継続してもらっている。基本的に受診は、家族対応だが、困難な場合は、往診を依頼したり、受診に同行している。医療機関との情報交換を行い、適切な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医は殆どが入居前からの馴染みの医師である。本人や家族の希望により協力医への変更もあるが稀である。家族が受診に同行する際には利用者の日常を口頭で伝え、不明点があれば病院側からすぐに問い合わせが入っている。また訪問看護師が手紙を添えることもあり、的確な診療の一助となっている。受診に職員が同行した場合、家族への結果報告の有無など、入居時に選択してもらった方法で対応している。不安なく過ごしてもらえよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と契約しており、24時間連絡可能な体制になっている。介護職員は、入居者様の健康状態の把握に努め、状態が変化した場合は、訪問看護師に報告相談し、主治医との連携をとりながら、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。	訪問看護師と契約しており、24時間連絡可能な体制になっている。介護職員は、入居者様の健康状態の把握に努め、状態が変化した場合は、訪問看護師に報告相談し、主治医との連携をとりながら、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、入院前の病状やADLを説明し情報提供を行っている。また、家族様との連携を密に行い、早期退院に向け、病院関係者との情報交換や相談に努め、定期的に容体訪問も行っている。入居者様が、安心して治療が受けられるように、病院関係者との関係づくりに努めている。	入院の際は、入院前の病状やADLを説明し情報提供を行っている。また、家族様との連携を密に行い、早期退院に向け、病院関係者との情報交換や相談に努め、定期的に容体訪問も行っている。入居者様が、安心して治療が受けられるように、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における対応や看取りにかかわる指針を説明している。重度化した場合は、本人と家族の希望を尊重し、できることを十分に説明しながら方針を共有し、医療共に、チームで支援に取り組んでいる。看取りになった場合は、体制が整った併設の施設に繋ぐことがある。	契約時に、重度化した場合における対応や看取りにかかわる指針を説明している。重度化した場合は、本人と家族の希望を尊重し、できることを十分に説明しながら方針を共有し、医療共に、チームで支援に取り組んでいる。看取りになった場合は、体制が整った併設の施設に繋ぐことがある。	これまでに看取りの経験はない。事業所の体制等から判断し、今後もその用意はしていない。隣接する同法人施設にはターミナルケアの実績があり、入居時にはその説明も行っている。これまでも容態の変化に応じ何度でも話し合いを重ね、本人や家族が不安なく納得した最期を迎えられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB (うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて、消防署からの指導による救急蘇生法やAEDの使用方法、急変時の対応について勉強会が開催されており、勉強会に参加することで、実践力を身に付けている。急変時の対応については、マニュアルを作成し、スタッフルームに掲示している。	法人にて、消防署からの指導による救急蘇生法やAEDの使用方法、急変時の対応について勉強会が開催されており、勉強会に参加することで、実践力を身に付けている。急変時の対応については、マニュアルを作成し、スタッフルームに掲示している。	/		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間と夜間の想定で、避難訓練を行っており、行政、地元区長、近隣の住民の方、地元消防団、婦人会に協力をいただき、地域と一体になった避難訓練を実施している。スピーカーを設置しており、非常時には近隣住民にも知らせるようになっている。	年2回、昼間と夜間の想定で、避難訓練を行っており、行政、地元区長、近隣の住民の方、地元消防団、婦人会に協力をいただき、地域と一体になった避難訓練を実施している。スピーカーを設置しており、非常時には近隣住民にも知らせるようになっている。	隣接する同法人事業所との合同訓練である。火災や自然災害を想定し、昼間だけではなく少し暗くなった時間帯でも避難訓練を行っている。一回は土曜日に実施することで地元消防団の参加もある。利用者も一緒に避難を体験しており、職員には役割を決め、居室からの避難済みを確認する係りもいる。全ての職員は消火器と火災通報装置の使い方を承知しており、スプリンクラーの設置もある。敷地内の同法人施設は市の福祉避難所に指定されており、非常食等の備蓄はそこで確保されている。利用者が居室に置く家具の固定は随時点検する予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に、接する際は、目上の方への敬意を持ち、その方の人生背景や性格を考慮し、入居者様と職員の距離感に気を付けながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	入居者に、接する際は、目上の方への敬意を持ち、その方の人生背景や性格を考慮し、入居者様と職員の距離感に気を付けながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	日々のケアでは利用者の立場に立つことを旨としている。法人内や事業所独自の接遇研修もある。トイレ介助や入浴の場面ではプライバシーや羞恥心にも配慮したケアを行っている。また、職員の個人情報の取扱いに対する意識は高く、それは入居時に細かく承諾を得る項目があることにも表れている。ホーム便り等への写真掲載許可はその一例である。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの人生背景や性格を考慮し、自然に希望や思いの表出ができるよう、雰囲気づくりに努めている。また、コミュニケーションを通して、自己決定ができるように働きかけている。	一人ひとりの人生背景や性格を考慮し、自然に希望や思いの表出ができるよう、雰囲気づくりに努めている。また、コミュニケーションを通して、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、一人ひとりの生活スタイルを大事にした支援を心掛けている。	職員は業務を優先するのではなく、一人ひとりの生活スタイルを大事にした支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、行きつけの美容院に行ったり、愛用の化粧品がなくなった場合は、ご家族に連絡し、持ってきていただいている。また、定期的に訪問理容に散髪して頂いている。男性の入居者様は毎日ひげそりをし、身だしなみを整えている。	本人の希望により、行きつけの美容院に行ったり、愛用の化粧品がなくなった場合は、ご家族に連絡し、持ってきていただいている。また、定期的に訪問理容に散髪して頂いている。男性の入居者様は毎日ひげそりをし、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、希望により外食やお好きなメニュー、行事には特別なメニューを用意し、職員と共に食卓を囲む機会を設けている。また、台所仕事がお好きな方には、配下膳やお盆拭き等を職員と一緒に楽しんで出来るよう支援している。畑の野菜を収穫し、ご希望のメニューに調理している。	誕生日には、希望により外食やお好きなメニュー、行事には特別なメニューを用意し、職員と共に食卓を囲む機会を設けている。また、台所仕事がお好きな方には、配下膳やお盆拭き等を職員と一緒に楽しんで出来るよう支援している。畑の野菜を収穫し、ご希望のメニューに調理している。	食材配達会社と契約しており、そこで管理栄養士による献立も作られている。利用者からのリクエストがあれば予定が変更され、概ね三日後には提供できる。好き嫌いやアレルギーの把握もしており、形状にも配慮している。殆どの利用者は食欲もあり料理を話題にしながら食事を楽しんでいる。箸が進まない人などではできるだけ自分で口へ運んでもらうような介助をしている。普段にアルコールを希望する利用者はいないが、行事の際には事業所で作った杏酒を振舞っている。また畑で野菜が採れれば献立外で一品作り喜ばれている。誕生日はできるだけ当日に祝い、職員が手作りケーキを用意している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や力に合わせ食事量や形態を工夫し、嚥下状態の悪い方には、母体の専門職に評価してもらい、状態に合わせた食事を提供している。水分量の少ない方には、ゼリーやお好きな飲み物で補給してもらうように工夫している。食事や水分量は毎日記録し管理している。	個々の状態や力に合わせ食事量や形態を工夫し、嚥下状態の悪い方には、母体の専門職に評価してもらい、状態に合わせた食事を提供している。水分量の少ない方には、ゼリーやお好きな飲み物で補給してもらうように工夫している。食事や水分量は毎日記録し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯や自歯のブラッシングをしてもらい、磨き残しや舌の汚れについては、スワブを使用したり、職員が一部介助することで、誤嚥性肺炎の予防や清潔保持ができています。夜間帯は、義歯洗浄剤に浸け管理している。また、必要に応じて、訪問歯科を利用し、口腔の管理に努めている。	毎食後、義歯や自歯のブラッシングをしてもらい、磨き残しや舌の汚れについては、スワブを使用したり、職員が一部介助することで、誤嚥性肺炎の予防や清潔保持ができています。夜間帯は義歯洗浄剤に浸け管理している。また、必要に応じて、訪問歯科を利用し、口腔の管理に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、不安の軽減の為排泄用品の選定、言葉かけや定時のトイレ案内を行い、排泄の失敗の減少に努めている。布パンツに近い紙オムツの使用で、不安の軽減に繋がった。また、排泄動作に不安があられる方には、見守りや、一部介助を行う事で安心されている。	個々の排泄パターンの把握に努め、不安の軽減の為排泄用品の選定、言葉かけや定時のトイレ案内を行い、排泄の失敗の減少に努めている。布パンツに近い紙オムツの使用で、不安の軽減に繋がった。また、排泄動作に不安があられる方には、見守りや、一部介助を行う事で安心されている。	排泄に関して自立している利用者は全体の三分の二ほどである。しかし、本人に任せたままでなく、さり気ない見守りも行っている。また排泄パターンを把握することによって細かい支援も可能となっている。入居時にはリハビリパンツだった人が布製の下着とパット併用に改善したのはその効果である。便座まわりに設置された手摺りも立ち座りを補助し、自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	畑で採れた野菜を提供したり、水分を多めに摂ってもらったり、ヨーグルトや食物繊維等の食品を取り入れ、予防に努めている。慢性の方には、投薬で対応し医師に相談の上、服薬の調整を行っている。	畑で採れた野菜を提供したり、水分を多めに摂ってもらったり、ヨーグルトや食物繊維等の食品を取り入れ、予防に努めている。慢性の方には、投薬で対応し医師に相談の上、服薬の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個室で入浴されており、時には仲のいい入居者同士で入れ、入浴剤を使用し色や香りも楽しんでいる。湯音や手順等一人ひとりの希望やご家族様の意向も取り入れ、リスクのある方は、安全面を考慮し福祉用具を使用している。入浴をお断りされる方には、無理強いせず別日にて対応している。	個室で入浴されており、時には仲のいい入居者同士で入れ、入浴剤を使用し色や香りも楽しんでいる。湯音や手順等一人ひとりの希望やご家族様の意向も取り入れ、リスクのある方は、安全面を考慮し福祉用具を使用している。入浴をお断りされる方には、無理強いせず別日にて対応している。	入浴は概ね冬場は週2回、夏場は週3回としている。しかし両ユニットの浴室には毎日お湯が張られ、希望があればいつでも可能である。シャンプーやソープ類は皮膚が弱い人への配慮もある。浴室内では浴槽が中央になる配置のため三方からの介助が出来る。また福祉用具のバスボードやシャワーキャリーを使い、安全な入浴が支援されている。窓からの景色は温泉宿の雰囲気もあり、急かされることなく、ゆったりと寛ぐ利用者が想いを話してくれることもある。衣服の脱ぎ着はできるだけ本人に任せ、羞恥心にも配慮しながら見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や談話コーナーでくつろいだり、午睡を促し、適度な休息の時間を設けている。夜は、自室に友人を招き会話したり、テレビ視聴後就寝されている。又、室温調整を随時行い、足元に湯たんぽや、愛用品の寝具で眠られている。不眠時は、ホットミルクを提供し、安心感を感じて頂けるよう支援している。	居室や談話コーナーでくつろいだり、午睡を促し、適度な休息の時間を設けている。夜は、自室に友人を招き会話したり、テレビ視聴後就寝されている。又、室温調整を随時行い、足元に湯たんぽや、愛用品の寝具で眠られている。不眠時は、ホットミルクを提供し、安心感を感じて頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケースに最新の薬状を入れ、薬の内容に変更があった場合は、申し送りに記入し一人ひとりが服用されている薬について理解し、症状の変化にも十分に注意している。薬は個別の袋に入れ、誤薬防止のため、4回の確認を行い、服薬の際は、名前、日付を声を出し確認の上、服用してもらっている。	個別のケースに最新の薬状を入れ、薬の内容に変更があった場合は、申し送りに記入し一人ひとりが服用されている薬について理解し、症状の変化にも十分に注意している。薬は個別の袋に入れ、誤薬防止のため、4回の確認を行い、服薬の際は、名前、日付を声を出し確認の上、服用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB (うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	衣類の補正や雑巾縫いや編み物、洗濯物たたみや居室や廊下の床拭き、カラオケ等一人ひとりの生活歴や力を生かし、生きがいや喜びのある毎日を過ごしていける様支援している。また買い物に出掛けられ、好きな菓子をを選んだり、行事の際には、食事の要望を聞きながら計画を立て実施している。	衣類の補正や雑巾縫いや編み物、洗濯物たたみや居室や廊下の床拭き、カラオケ等一人ひとりの生活歴や力を生かし、生きがいや喜びのある毎日を過ごしていける様支援している。また買い物に出掛けられ、好きな菓子をを選んだり、行事の際には、食事の要望を聞きながら計画を立て実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブ、外食等希望された際は、できる限り要望にお応えできるよう努めている。また、本人様のご家族様にお伝えし、外食の機会を設けて頂いている。	散歩や買い物、ドライブ、外食等希望された際は、できる限り要望にお応えできるよう努めている。また、本人様のご家族様にお伝えし、外食の機会を設けて頂いている。	敷地の奥には美彩の森と名付けられた花木を植えた憩いの場所があり、日常的な散歩コースとして活用できる。また、日頃から行きたい所を尋ねており、姉妹が営む美容室と答えた利用者は近く訪問予定である。天候や体調をみながら想いに応えられるよう努めている。歳を重ねるごとに体力の低下は否めないが、隣接の同法人施設には車椅子対応車両もあり、活かそうとしている。それでも難しいケースには玄関前のベンチに座り一緒に日光浴を楽しんでいる。外の空気に触れることの大切さを考慮し、全く戸外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、自己管理出来る方は、お金を所持されており、苑外活動や移動販売にて、好きな物を購入され、支払いもご自分でされる。定期的に行きつけの美容室にカットや毛染めに行かれ、有効にお金を使われている。	ご家族と相談の上、自己管理出来る方は、お金を所持されており、苑外活動や移動販売にて、好きな物を購入され、支払いもご自分でされる。定期的に行きつけの美容室にカットや毛染めに行かれ、有効にお金を使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や家族に電話されている。毎月のお便りには、直筆でメッセージを記入されている。	友人や家族に電話されている。毎月のお便りには、直筆でメッセージを記入されている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が作成された干支の貼り絵や運動会の賞状、献立等を掲示し、季節感や生活感を大切にしたい設えを心掛けている。温度や湿度照明等の調整をこまめに行い、職員も環境に一部であることを意識し、居心地のいい、静かな環境づくりに努めている。	入居者様が作成された干支の貼り絵や運動会の賞状、献立等を掲示し、季節感や生活感を大切にしたい設えを心掛けている。温度や湿度照明等の調整をこまめに行い、職員も環境に一部であることを意識し、居心地のいい、静かな環境づくりに努めている。	事業所は木をふんだんに使った設計で和の趣がある。リビングでは高い天井や梁、柱から自然の温もりが感じられ開放感もある。大きな貯水池の辺に建つ事業所は眺めが良く、サッシ戸を開けウッドデッキへ出ると更に季節を感じることができる。騒音はなく静かな環境である。廊下は広く、歩行を妨げる物もない。車椅子の利用者にも手摺りの高さは程よく設えてあり安全に過ごしている。職員と一緒に掃除を手伝う利用者もあり、きれいに掃除され、トイレ等の嫌な臭いもない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やウッドデッキ、談話コーナーのソファで独りで過ごしたり、気の合う仲間同士でテーブルを囲みながら、話をしたり、ソファに座りながら、各自ゆっくりと穏やかな時間をお過ごしになられている	玄関やウッドデッキ、談話コーナーのソファで独りで過ごしたり、気の合う仲間同士でテーブルを囲みながら、話をしたり、ソファに座りながら、各自ゆっくりと穏やかな時間をお過ごしになられている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、馴染みの品物を持ってきていただき、自分の家により近い環境で、安心して過ごしてもらような工夫をしている。自室に仲間を招きお茶や話をしたり テレビを見て心地よく過ごしたり、一人で編み物をしたりと居心地のよい場所となっている。	本人や家族と相談し、馴染みの品物を持ってきていただき、自分の家により近い環境で、安心して過ごしてもらような工夫をしている。自室に仲間を招きお茶や話をしたり テレビを見て心地よく過ごしたり、一人で編み物をしたりと居心地のよい場所となっている。	居室にはエアコン、ベッドの他に作り付けのタンスや洗面台も設置されている。入居の際には使い慣れた物を持ち込んでもらい、落ち着いた生活ができるよう支援している。仏壇を持ち、自分で摘んだ花を供える人もある。掃除は職員が行うが、できる事を手伝う利用者もいる。家族が宿泊を希望する場合、前日までに申し出をすれば可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の残された能力の見極め、道標や標示をすることで、できるだけ混乱の無いよう工夫している。また、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、安全かつ自立した生活がおくれる様支援している。	本人の残された能力の見極め、道標や標示をすることで、できるだけ混乱の無いよう工夫している。また、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、安全かつ自立した生活がおくれる様支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない